

名古屋地方気象台は3月2日（月）、今年の冬(2014年12月～2月)の天候まとめを発表した。

東海地方のこの冬は、12月に寒気の影響を受ける時期が多く寒冬。1月は南から暖かい空気の影響で高温となったが、気温の変動が大きく、3ヶ月間の平均気温平年差は-0.2℃と寒い冬であった。また、12月、1月は低気圧や前線の影響を受けやすく多雨となった。2月はまとまった雨が降らず小雨であったが、3ヶ月間の降水量平年比は140%と雨の多い冬であった。【出典：名古屋地方気象台 報道資料より抜粋】



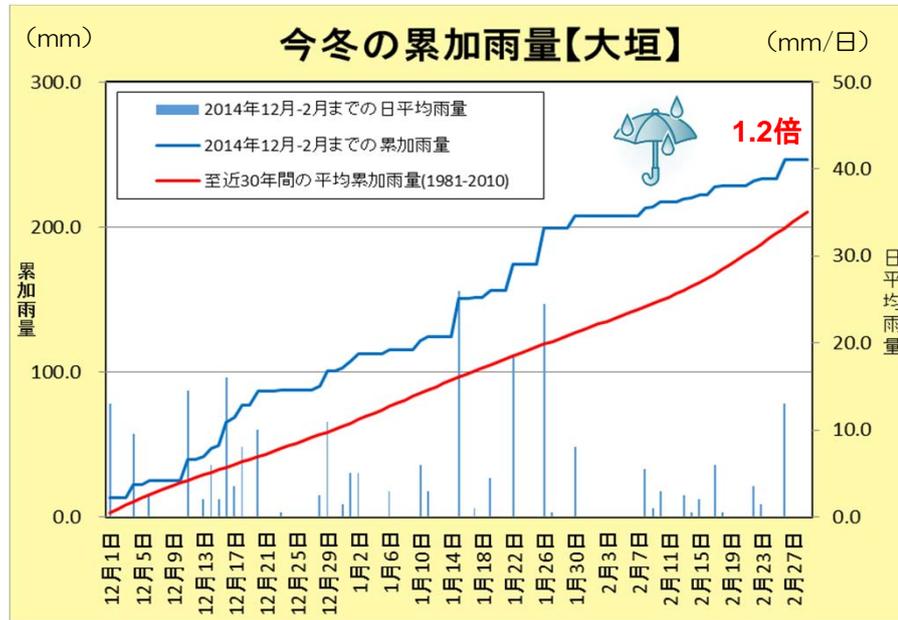
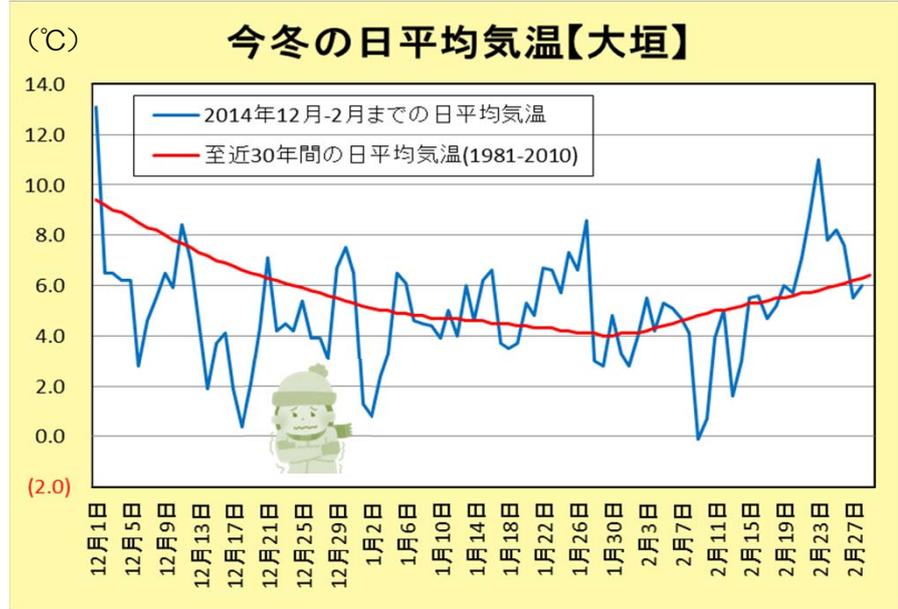
『今年の冬は寒かった！』 大垣の降水量 平年比の約1.2倍

上記、名古屋地方気象台から発表された内容について、当出張所官内の状況について整理した。なお、地点は、気象庁が管轄する「大垣観測所」とし、気象庁から公表されている統計データを用いた。

その結果、大垣における今年の冬（12月～2月）の3ヶ月間平均気温は5.0℃で、至近30力年の平均気温平年差-0.6℃であった。

また、3ヶ月間の累加雨量は約250mmで、至近30力年の平年値（約210mm）で約120%に上がった。

昨年の冬（2013年12月～2月）の累加雨量は約240mm。今年の冬の総量と大差はないが、特に今年は工事の最盛期となる12月から1月にかけて断続的に多くの雨が降った関係で、昨年以上に各工事現場では、土の締め固め管理やコンクリートの打設工程に苦労し、気を配りながら進めました。



出典：気象庁HPより公表されている統計データを下にオリジナルに作図